

新しい体制に、乞うご期待!!

NPO法人 SEAN 副理事長 遠矢 家永子



今回、組織の雇用者である理事長と被雇用者

となる事務局長という矛盾から起こる労務の問題もあって、小川さんと理事長をバトンタッチする運びとなりました。かつてより、方向性を確認し評価を担う理事会と、その実行部隊である事務局とのそれぞれの代表が、同一人物であることの問題をずっと実感しつつも、実質の利便性からなかなか交代するにいきつかない現状を抱えていました。

小川さんの懐の深さ(♪)によって、ようやくより望ましい方向へと移行できたことに感謝し、発展的な新たなステップとしてより充実した活動を展開していきたいと思えます。SEANの理事は、できるだけ

け多様な人たち(その役割もセクシュアリティも)で、しかも私が信頼し安心できる人をセレクトしてラブコールし集まってくれただけでみなさんです。その中でも、小川さんは法人結成当初より関わってくれただけで、男女共同参画の分野でもあちらこちらで活躍されているという噂をよく聞きます。(自分からはアピールされないで、笑)

SEANの活動は、理事だけではなく、様々な人たちの関わりによって命が吹き込まれます。2009年度もみなさんと一緒にネットワークを拡げ取り組みを続けていければと願います。

理事暦8年!!

NPO法人 SEAN 理事 中村 淑子



あれは8年前、声を掛けられるがままに、「なんだかおもしろそう」という気持ちで理事になった。市民活動やNPO活動、そして理事の役割さえもよく知らないまま…、

かれこれ9年目に入ろうとしている。始まってからわかったことは、理事兼事務局で、「なんだかおもしろそう」ではすまされず、とにかく組織を運営していかなくてはいけないということ。要領が悪いこともあり、超多忙な毎日ではあるが、その積み重ねでなんとか今日までやってきた。

理事会は、多様な人たちで構成されていて、それがまたオモシロイ。それぞれの立場からの意見が飛び交い、回数を重ねるごとに充実してきている。これから

からも丁寧な議論を展開し、SEANの進むべき方向性を示していければと思う。

最近、ある事業担当者に「一年を終えての感想」を求めた時、「達成感をみんなに伝えたいのですね!」という言葉が返ってきた。とても印象的だった。余裕無く走り続けて、いや実は流されて…(笑)きたが、区切りとして達成感を味わうことはとても大切なコト。充実した活動を展開するためにも、仲間と共に投げ出すにやり遂げたことに喜びや達成感を感じ、「なんだかおもしろそう」につられて、新たな一歩を踏み出せるSEANでありたいと思う。

村中みんなまで

NPO法人 SEAN 理事 中村 彰



昨年春、思いもかけず、よくなか男女共同参画推進センターすてっぷ館長を引受けることになった。常勤館長という勤務となり、おのずと「館長業務」という大波に飲み込まれてしまった。理事として

「決め細やかなNPO活動を担いたい」という私の心情の部分が、減速を余儀なくされたことは残念である。

昨年、地域の公民館活動で「ALWAYS三丁目の夕日」と続編を上映した。東京タワーを建設していた昭和30年代初めの東京・下町を舞台にした映画である。同じ地域に暮らす住民の人情あふれる情景が描かれていて、子どもたちも地域の暖かい眼差しの中かで成長していく。

アフリカのことわざ「子どもは村中みんなまで育てるもの」から書名をとったヒラリー・クリントンの著書『村中みんなまで』がある。この本で、著者は、自らの子ども時代や子育てのエピソードを交えながら、地域みんなまで子育てにかかわることが大切だと説いている。

大人が子どもに生活の知恵を伝えるだけでなく、子どもたちから大人が学ぶことも多い。双方向であることを忘れてはならない。

「子どもたちが被害者にも加害者にもならず健やかに育つ」支援をSEANでは担っている。そのとりくみの大切さを思うとき、可能な限り、スタッフとともに活動の一翼を担い続けたいと考えている。

「担当はお笑いと○○…かな?」

NPO法人 SEAN 理事 佐倉 智美



早いもので私がSEANの理事となつて久

しい。当初は、遠矢さんがダテと酔狂で誘ったのを私がシャレで引き受けた(?)つもりだったが、ここまで来ると、さすがにもつと真面目に職責を全うせねばなるまいと思うことしきりである。

では私、佐倉智美がSEANの理事としてもつとも望まれる役割とは!となるとはたして何だろうか?…お笑い?いやパソコン??

現実としては、これらもまた真であったりしなくもない。ただまあSEANの事業の根幹である、人々を抑圧するさまざまな生きにくさへの取り組み。

その背景となつている、いわゆるジェンダー問題の、そのおおもとはといえば、やはりすべてに先だつて人間を女か男かの2つのみに分ける「性別という制度」なわけなので、そこにおいて、まさに「性別という制度」にまうつたりとは当てはまらない、つまり単純に女か男かの2つに分けられる世界での居心地がすこぶるよろしくない私が提示できる視点というのは、やはりかなり大切なのだろう。

おそらくはそこを活かしていくことが、ここに私が存在する意義である。…というところで、皆様、今後ともよろしくお願いいたします。